



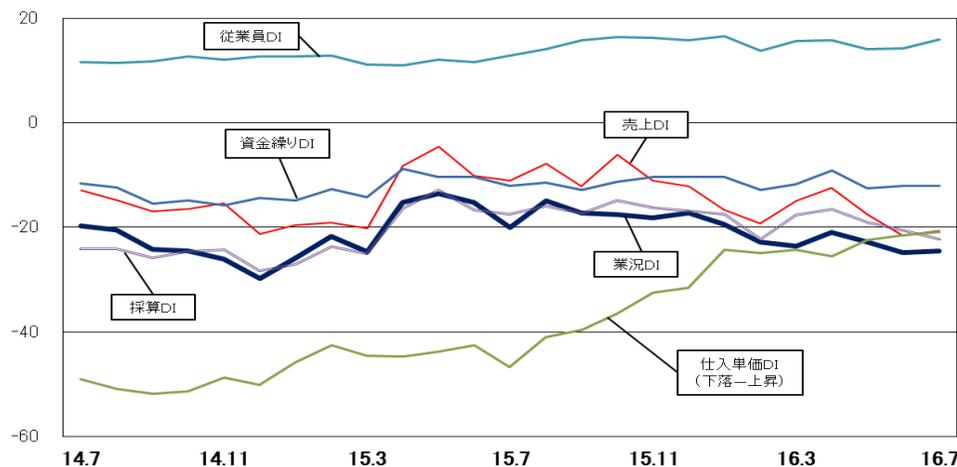
業況DIは、ほぼ横ばい。先行きも懸念材料多く、慎重な見方が続く

ポイント

▶ 7月の全産業合計の業況DIは、▲24.5と、前月から+0.3ポイントのほぼ横ばい。好調な観光需要や住宅建設の持ち直し、原材料価格の下落、依然として低い水準の燃料費が中小企業の業況感を下支えしている。他方、英国のEU離脱決定による株価・為替の不安定な推移や消費低迷の長期化、人手不足の影響拡大を懸念する声も多く聞かれた。

▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲23.2(今月比+1.3ポイント)と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因。夏の観光需要の拡大、飲食料品や家電など夏物商品の販売増加、経済対策・補正予算に期待する声が聞かれる。他方、金融市場の不安定な動きに伴う消費の一段の悪化、人手不足による受注機会の損失や人件費の上昇、海外経済の減速など懸念材料も多く、中小企業においては、先行きへの慎重な見方が続く。

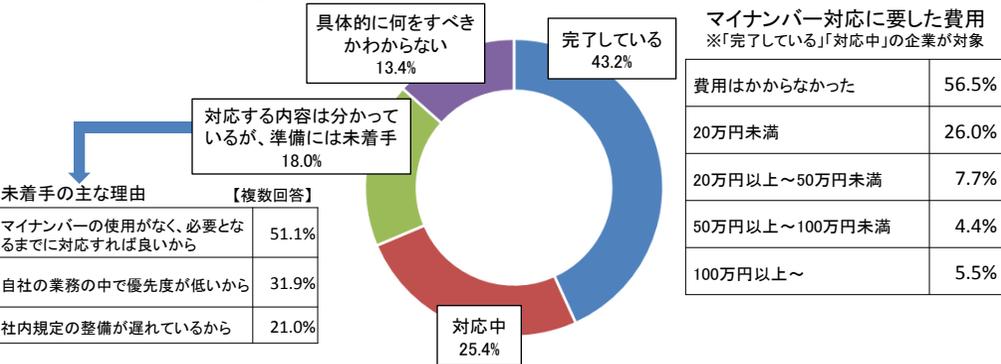
LOBO全産業合計の各DIの推移(2014年7月以降)



マイナンバーへの対応について

▶ マイナンバーへの対応状況は、「完了している」企業(全産業)は43.2%、「対応中」企業は25.4%。一方、「対応する内容は分かっているが、準備には未着手」「具体的に何をすべきかわからない」は合わせて31.4%

<マイナンバーの対応状況について>



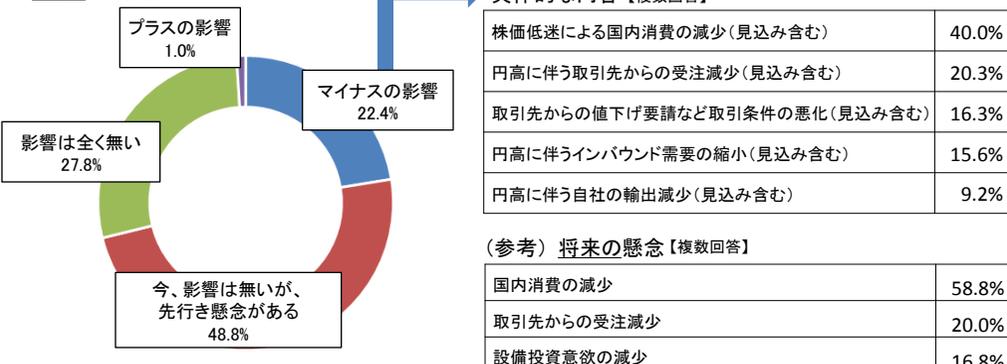
[中小企業の声]

▶ マイナンバーの対応は完了したが、保守契約の範囲内で対応できたため、特段の費用はかからなかった (鹿児島 総合建設業)
▶ マイナンバーについて対応すべき内容は分かっているが、まだ必要が無いため、マイナンバーの収集・管理は行っていない (札幌 建築材料卸売業)

英国のEU離脱決定のビジネスへの影響について

▶ 英国のEU離脱の決定は、「今、影響は無いが、先行き懸念」(全産業)と回答した企業が48.8%と最も多く、次いで「影響は全く無い」と回答した企業は27.8%、「マイナスの影響」と回答した企業は22.4%

<足元の影響について>



[中小企業の声]

▶ 円高・株安により消費マインドが冷え込んでおり、採算を確保するのに精一杯である (豊橋 百貨店)
▶ 円高進行による仕入れ価格の下落はありがたいが、株安低迷が続くことによって、国内消費が一段と悪化することを懸念している (三原 飼育肥料製造業)